

廃棄うどんからエタノール

高松で循環サミット

身近にある物から燃料をつくり、環境への負荷を減らす工夫について考えるシンポジウム「うどん県。まると循環サミット」が4日、高松市のサンポート高松で開かれ、市民約50人がうどんの食べ残しからエタノールを生み出す取り組み

などを学んだ。

環境省が主催。民間企業の担当者やNPO代表をパネリストに招いたシンポジウムがあり、高松市の機械メーカー「ちよだ製作所」が、うどんの食べ残しや切れ端からエタノールをつくる試みを紹介し

た。
製麺業者から「廃棄されるうどんが県内で年間1500トあり、処分するのに2000万円かかる」と相談を受けたのがきっかけで始まったといい、担当者は「うどんは糖分が多く、効率よくエタノールが取れる。もともと捨てる部分なので(トウモロコシなどと違って)食糧と競合しないのも魅力」と説明した。

高松市木太町の会社員田村信治さん(57)は「地道な研究だが、夢を感じた。『香川県内の車はすべてうどんエタノール』で走ってます!」みたいな未来が来た

ら楽しそう」と話していた。